

11. 中国山地の砂鉄ペルト西端 山口県北東部の和鉄地帯を訪ねて

「須佐 高山の磁石石」 & 白須鉄山遺跡を訪ねて 山口県須佐町 2004.7.2.



山口県須佐町 磁石石のある「須佐 高山」と高山から須佐湾を望む 2004.7.2.

「磁石石」って知っていますか。。。。

山口県の最北東部 中国山地が日本海に崩れ落ちる西の端

入り組んだ須佐湾の入口に有名なホルンフェルス断層の断崖が続く。

山裾がそのままこのホルンフェルス断層となって日本海に落ち込む小高い山「須佐 高山」

そこには 磁石石があって昔から「この沖を通ると磁石が狂う」と言われているという。

また、須佐の港へ入るヨットマンも同じ経験があると。。。。。。

今年の1月 播磨・中国山地の砂鉄・たたら製鉄地帯を調べている中でそんな話を聞きました。

「ほんなかいな。。。。」と半信半疑ながら色々断片的な話を集めて調べると実に面白い「和鉄の道・Iron Road」が浮かび上がってきました。これは 信憑性あり。。。。と。

「山口県 須佐町」はホルンフェルス断層の断崖を中心とした海岸線が美しく、町名の由来となった「スサノオ」伝説の残る町。



天然記念物 ホルンフェルス

ヤマタノオロチを退治した神話で知られる須佐之男命が、出雲の国から朝鮮半島に往き来したとき、須佐の地にとどまり、海路を望んだことから神山(こうやま)と命名されたという伝説が残っている。

この神山が現在の標高 532.8mの高山で山頂からは、美しい海食崖が数多く見られる須佐湾を一望。

また、頂上には強い磁力を帯びた岩が点在し、高山沖を通る船舶の羅針盤を狂わすと。。。。。。

この高山磁石石は国の天然記念物に指定されていることも知りました。

出雲・須佐之男命や大国主命は「製鉄」技術伝来と深い関連をもつ神で、その行く所・伝承地は日本黎明期の製鉄関連地と関係していることが多い。その伝承地 須佐町に磁石を帯びた鉄の山。

そして 今も高山頂上部では磁化した石「磁石石」がごろごろしているという。

何度となく この周辺の山中や海岸沿いを walk しましたが、「高山 磁石石」については話を聞いて調べるまで知りませんでした。

地図でみると須佐湾入口に高山という小高い山があり、其処に天然記念物「磁石石」の印がついている。

一方、この山深い一帯はたたら製鉄遺跡が点々と散らばる山口県のたたら製鉄立ちたいである。



何度となく歩き回った所で、幕末 長州が武器の補給・支援基地とした長州の製鉄地帯である。

須佐高山の磁石石もこの地に散らばるたたら製鉄遺跡も、この地が白山火山帯に属し、太古の時代の火山活動で形成された鉄分を多く含む深成岩帯と関係している。出雲もまさにこの深成岩ベルトの中にある。

山陰の海岸に沿って中国山地を東西に走る鉄分を含む深成岩帯はまさに「和鉄の道」なのである。その西の端に「須佐 高山 磁石石」があり、阿武町「大板たたら製鉄遺跡」や「白須たたら製鉄遺跡」などがある。

須佐高山は須佐湾の北側 日本海に突き出た海岸の小さな山で、頂上からは北の須佐湾そして、南には中国山地が眼下一杯に広がる景勝地で、地球のマントルが砂岩・泥岩の堆積地を突き破って地表に頭をだし、日本海に崩れ落ちていているところ。

7月に入って山口県美祿を訪ねるのを機会に興味深々で「須佐 高山の磁石石」を訪ねて本当に磁針が狂うのか確かめてきました。



マントルが噴出した高山頂上部には深成岩の一種班レイ岩(マントルに多く含まれる鉱物質特に鉄分が多数含まれている)がごろごろ。

岩に磁石を近づけると確かに反対方位を指しました。
僕の胸の高さに磁石を持って
ゆくと正常でした。

そんなばかな・・・と思うの
ですが、磁石が狂う場所が日
本にもあるのです。

日本ではほかに 長野・新潟
大阪生駒山に同じような場所
があるというのですが・・・

この須佐ほど大規模な所は無いようです。



南西の須佐湾を背に磁針が南東を指す



須佐 高山 磁石石の上で 2004.7.2.

須佐 高山で地表に頭を出したマントルの高熱によって周辺の砂岩・泥岩の地層が再結晶変質したのが
フォルンフェルス断層。まさに地球規模の溶接熱影響部である。

また、瀬戸内側徳山から北の須佐へ中国山地を横断する国道 315 号線を通ったのですが、中国山地に分
け入ると製鉄関連地名が点々と続く和鉄の道。その先の海岸に磁石石の高山 そして其処に立ち海を眺
めるスサノオノミコト。

須佐 高山に行くまで そんなに意識しなかったのですが、出雲・日本誕生にかかわる和鉄の道を思い
浮かべています。

海を隔てた朝鮮半島から東へ 長州・石見・出雲・因幡・美作・奥播磨・丹後・奥琵琶湖そして畿内・
越の国へと和鉄の道が日本海沿岸に沿って続いている。須佐 高山の磁石石はまさにその山陰沿岸を伝
う和鉄の道の西端を示すモニュメントか・・・

何度となくその絵図を参考に使った「白須鉄山遺
跡」はこの須佐の海岸から中国山地へ少し入った
全く人影のない山中。

合歓の木の花満開の静かな湖水が広がる山際の緑
の中に遺跡を示す看板だけが目印。

ひっそりと静寂の中に埋もれていました。



昔学生時代 山仲間でよく歌った

「合歓の木のその下で ほろほーろと 泣いた人

わかれても はなれても 夢ならば 会えるもの 」

無性に恋しくなって 口ずさんでいました。

2004.7.2. 午後 白須たたら遺跡 ダムの傍で

「須佐高山の磁石石」 & 白須鉄山遺跡を訪ねて

中国山地の砂鉄ベルトの西端 山口県北東部の和鉄地帯を訪ねて

1. 徳山から中国山地を横断して須佐の街へ
製鉄地名が次々と現れる国道 315 線 そこはかつての和鉄生産地帯
2. 磁石石の「須佐 高山」
須佐湾や日本海沿岸を眺望できる展望所
スサノオ伝説の残る神山には 磁石石がゴロゴロでした
3. ホルンフェルス断層
高温の地球マントルが地表に噴出して 地層を美しく飾った自然の造形
4. 中国山地を東西に走る太古の深成岩地帯と和鉄を育んだ砂鉄ベルト
「須佐 高山 磁石石」・「ホルンフェルス」そして点在する製鉄遺跡
5. 詳細な近世和鉄生産が絵図にされた白須たたら遺跡 探訪
「先大津阿川村山砂鉄洗之図」に記録された和鉄・
幕末長州の武器を支えた萩藩営のたたら製鉄

1. 徳山から中国山地を横断して須佐の街へ

製鉄地名が次々と現れる国道 315 線 そこはかつての和鉄生産地帯

徳山から日本海側須佐へ 中国山地を横断する国道315号線
中国山地が日本海へ落ちる山中を走るこの街道は
幕末長州の武器を支えた和鉄の道



7月2日

快晴 朝 神戸を出ていつもの通り山陽道を西へ。昨年10月以来である。真っ先に須佐の磁石石を確かめてから、美祢まで行く。

約 4 時間で徳山東インターを出て国道 315 号を北へ、中国山地を越えて日本海側へ縦断する。
東西に伸びる山口県では幾本かの国道が
南北に本州を縦断して日本海側を結ぶ一
番東の道。

徳山からもう直ぐ山の中に入り、鹿野町
で中国縦貫道と交差し、さらに北へ。

約 1 時間で山を抜け、りんごの栽培が盛
んなリンゴ南限の地「徳佐」。見覚えのあ
る家並が広がる風景で。ここで、日本海
側益田から山中の狭い盆地を縫って津和
野・山口盆地を経て瀬戸内海へ出て下関
に向かう国道 9 号線と交差する。

ここからまた山中に入るが、この山中は
山深い山口県にあっても最も山深い地で
平家落人伝説や隠れキリシタンの痕跡が
残る静かな山郷が続く所。

また、北へ 阿東町・むつみ村・福栄村
・阿武町そして須佐町へと続く「和鉄」
の痕跡の残る古い山口の製鉄
地帯でもある。

山口に赴任している時には原
チャリで駆け回ったフィール
ドである。

徳佐から北へ入ってまもなく
阿東町「鍛冶が原」の標識。そ
してむつみ村に入ると金谷。地図には金谷峠の地名も見える。

山中を曲がりくねった道を行く
とホルンフェルスへの標識も見える。

この山中 西側の山々を越える今回は行かないが、とかつて訪れた事のある福栄村 大板山たたら遺跡。
正面に金山谷トンネルが現れる。このトンネルを抜けると山陰側日本海海岸の須佐の町。
長いトンネルを抜けるとパッと空が開ける。



阿東町鍛冶が原の標識がみえる 国道 315 号線で



国道 315 号線 フォルンフェルスへの標識と金山谷トンネル

2004.7.2.

まだまだ山並の上であるが、大きな谷にチョコレート色の大きな橋が緑の谷を渡っている。

「須佐大橋」橋の横に展望台があり、眼下緑の谷の向こうに須佐の町と日本海が緑の山並みの中に見えている。

少し霞んでいるが、須佐の海岸の突き出た所になだらかな山が見える。多分これが磁石石のある高山。

かつて何度か行ったホルンフェルススの直ぐ上の山である。反対側南には今越えてきた中国山地の山が幾重にも重なっている。



「須佐大橋」と須佐大橋から見る「須佐 高山」



和鉄の道をつなぐ現代の鉄のモニュメント

1991 年完成の無塗装 鋼橋 須佐大橋

この須佐大橋は 1991 年 国道 315 号線の須佐バイパス建設で唐津谷をまたぐ全長 313m の逆ローゼ形式の巨大橋でアーチ支間長 190 メートル 下の唐津川からの高さ 100m 耐候性鋼材 1745 t が使われ無塗装が実現されている。

緑の深い谷に橋のチョコレート色が映えて美しく、今も現役で無塗装であるのがうれしい。

この須佐大橋は製鉄関連地名やたたら製鉄遺跡が点々と連なる国道 315 号線「和鉄の道」をつなぐ現代の鉄のモニュメントである。



中国山地 緑の真っ只中にかかる須佐大橋

須佐海岸 高山からの眺望

この須佐大橋から海岸へ下れば、もう 磁石石のある「須佐 高山」

本当に磁石の針は狂うだろうか。。。。。と興味深々で山を下っていった。

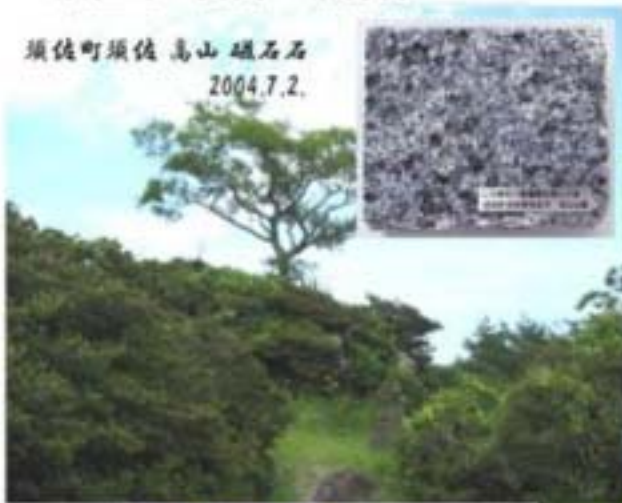
2. 磁石石の「須佐 高山」

須佐湾や日本海沿岸を眺望できる展望所サノオ伝説の残る神山
には磁石石がゴロゴロでした



須佐町 高山 磁石石

須佐町須佐 高山 磁石石
2004.7.2.



須佐町の海岸へ下りて国道 191 号線を横切り海岸に沿った街中へでる。

フォルンフェルスへの標識に従って、海に突き出た須佐湾沿いの海岸を少し行くと「高山山頂入口」の標識。

ここを右に折れてちらちら高山の頂上を眺めながら少し上るとほどなく須佐高山の駐車場に出る。



人っ子一人おらず、案内板もないが、頂上へ登っていく階段状の遊歩道がついている。これを上りきると展望台のある高山頂上に出た。

眼下には須佐湾から中国山地が広がり、素晴らしい景色である。また。北側には山々がそのまま日本海に落ち込んだ海岸が続いている。

「昔出雲の須佐之男命が出雲と朝鮮半島を行き来する際に海路を望んだ」とのスサノオ伝説の残る場所。

伝説の通り 360 度の展望とともに 日本海沿岸を行き来する海路が良くみえる。



須佐 高山頂上展望台からの 360 度の眺望 2004.7.2.



北東側 益田へと続く日本海海岸



南—南西側 須佐湾から萩・長門へと続く日本海海岸



南側 中国山地の山並みから西側須佐湾



須佐高山頂上付近より

展望台周辺には北長門海岸国定公園の案内板はあるもののなだらかな草原の丘で見渡しても岩も見えず、ちょっぴり心配になる。磁石出して方向を測ってみるが、特に変化なし。

この頂の西側にもうひとつの小高い丘が在り木々の間に岩が見えるので、そっちへ向かって灌木の間を抜けてゆく。

灌木の中に 折り重なった岩が幾組が見える。鞍部にまで下ってから、少し西へ上ったところに「天然記念物 磁石石」の案内板があり、ほっとする。



どうも これら周りの木々の間にある石がいずれも磁石石のようだが、馬蹄形磁石を吊り下げてみるが良く判らぬ。



須佐高山 磁石石の案内板と 露出した磁石石(斑レイ岩) 2004.7.2.



馬蹄形磁石やコンパスを置いて 磁化を調べる 2004.7.2.

色々やってみたが、はっきりしない。

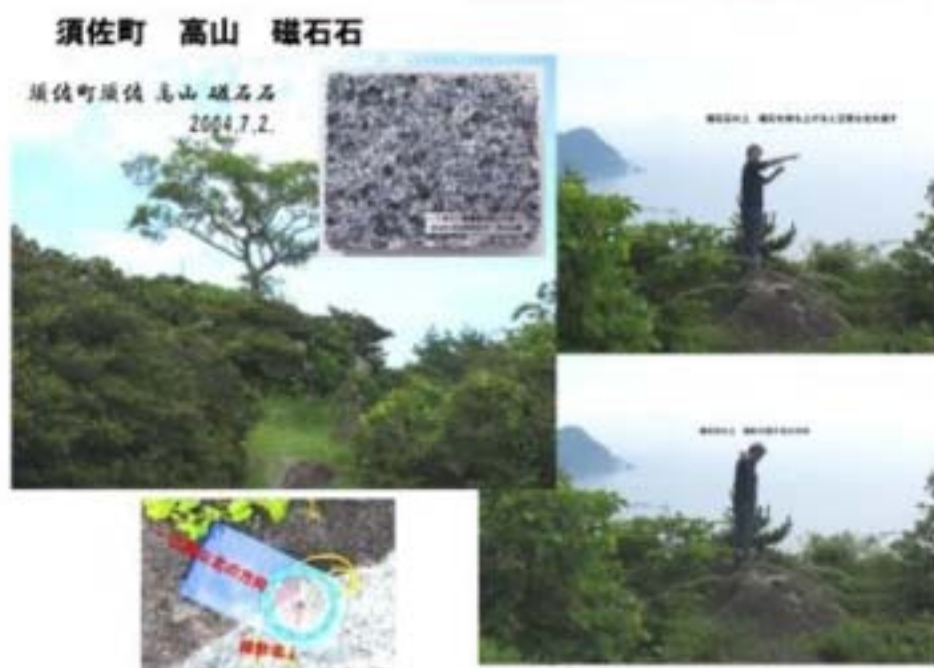
半分あきらめ気味に石の上にコンパスを置くとどうも方向がおかしい。

立ち上がって胸の位置で磁針の方向見ると正常に北を指している。 やっぱり岩は磁化している。

幾つかの場所でやってみましたが、大小の差はありますが、磁針が狂う。

でも岩から遠ざけると正常の磁針方向をさす。

聞いていたほどの磁化の強さではないが、頂上部の岩で本当に磁針の方向が狂う。



この須佐 高山は間違いなく「鉄の山」。

太古の時代に鉄分を多く含んだ地球のマントルが頭をもたげた場所。それが鉄分を多く含んだ斑レイ岩となって露出している。

海岸ににゅっと飛び出た鉄の山に何度となく落雷があっても不思議でない。

度重なる落雷によって、鉄山の磁化が完成したのだろう。



高山磁石石形成モデル

本当にこんなことあるのですね。。。。。。

どこかにもっと磁化の強い石はないかと探してみましたが よう 見つけませんでした。



一方 この高熱の影響を受けた砂岩の大地は再結晶してホルンフェルスとなって、その断面を縞模様の岩の崖となってその地層を見せる。

鉄鋼の溶接・接合部の断面を幾度となく見てきましたが、まさに地球規模の溶接熱影響部断面。このホルンフェルス断層が岩石の溶着・溶接接合界面部であること知ってすっかりうれしくなる。。

もう一度 高山頂上に戻り、南の山々を眺める。

丹後・美作・伯耆・奥出雲・石見・長門へ延々と続くこの中国山地はこの高山で日本海へ崩れ落ちる砂鉄ベルト地帯。日本誕生からずっと日本を支えた和鉄生産基地が点々と並び、山並みを縫って、延々と和鉄の道が続く。

「須佐 高山の磁石石」ほんまかいな。。。。と

思っていました、本当に磁針が狂う磁石石がありました。

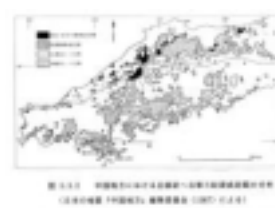
この磁石石に象徴される須佐に残るスサノオ伝説も和鉄生産地の焼き直しかもしれないし、また三輪山の磐座初め、各地の神奈備山の磐座も同じような性格を持っているのでは・・・とイメージがさらに膨らんでゆく。

また、大阪生駒山 長野 新潟 東北にも磁石石があるという。

これも機会があれば調べたい。

山口県の山の中ばかり、眼を向けていましたが、海岸にこんな和鉄の痕跡があるなんて全く知りませんでした。須佐町がスサノオ伝説の町と知ったときに気付くべきでした。

そんなことを考えながら、山を下って、もうひとつの和鉄の痕跡(中国山地 砂鉄ベルトの西の端) ホルンフェルスへ向かいました。



白亜紀～古第三紀深成岩類分布と重なる中国山地 砂鉄ベルト地帯・和鉄生産地

3. ホルンフェルス断層 高温の地球マントルが地表に噴出して 地層を美しく飾った自然の造形

須佐町 ホルンフェルス 2004. 7. 2.



須佐高山に噴出した高熱のマントルで高熱に熱せられた周辺の地層の岩帯が半熔融再結晶して、美しい層を形成。 その後の地殻変動 断層でこのマントル熱影響変成層が露出している。

これがホルンフェルス。

須佐高山を下りて 高山の山腹沿いに須佐湾を回り、日本海の外洋に突き出た所で、高山が断崖となって海に落ちている。

まるで渋い服か壁紙のデザインでも見るかのように美しい水平の縞模様を持った断崖へ出る。

ホルンフェルスである。



ここに来るといつも思うのですが、見た目よりも写真にすると非常に素晴らしい。
ちょっとまねできないデザイン画。

自然の造形の中に身をおいて、また 何枚も写真をとりました。

頂上部は見えないが、「鉄の山 須佐 高山」の痕跡がないかと注意してみると、層状の岩の間から茶色の鉄分が滲み出している。ホルンフェルスそのものは鉄分を含まぬ砂岩・泥岩であるが、高山の斑レイ岩から溶け出た鉄分のサビがホルンフェルスの層間を通して滲み出している。



4. 中国山地を東西に走る太古の深成岩地帯と和鉄を育んだ砂鉄ベルト

「須佐 高山 磁石石」・「ホルンフェルス」そして点在する製鉄遺跡

中国山地に散らばる「たたら製鉄遺跡」地帯と中国山地日本海側を走る花崗岩類や斑レイ岩などの深成岩帯ベルトとは深いつながりを持っている。

これら深成岩帯は地球のマントルが火山活動の中で地球の内部深くから噴出し固まったもので、鉄をはじめ多くの鉱物資源が含まれている。

すべての深成岩に鉄分が含まれているという訳ではないが、白山火山帯に属する山陰海岸沿いの深成岩ベルトには磁鉄鉱など鉄鉱物が含まれている。

一方 瀬戸内側にも 豊富な花崗岩類のベルトがあちこちにあるが、あまり鉄分を含んでいないといわれる。



鉄分がこれらの花崗岩類などの深成岩に含まれるといってもせいぜい数パーセントまでであり、それらが鉄資源「山砂鉄」としてそのまま使われるのはずっと後の時代である。

鉄を含有するこれら岩石が地殻変動や自然風化・崩壊などによって砕かれて細分化されて、川に流され、海岸へと益々砕かれて流れ下る。

これら細分化される過程で鉄分が自然分離され、川砂鉄・浜砂鉄として川筋や河口の海岸に堆積し、日本独特の鉄資源として使われた。



図 3.3.2 中国地方における白亜紀～古第三紀深成岩類の分布
(日本の地質『中国地方』編集委員会(1987)による)

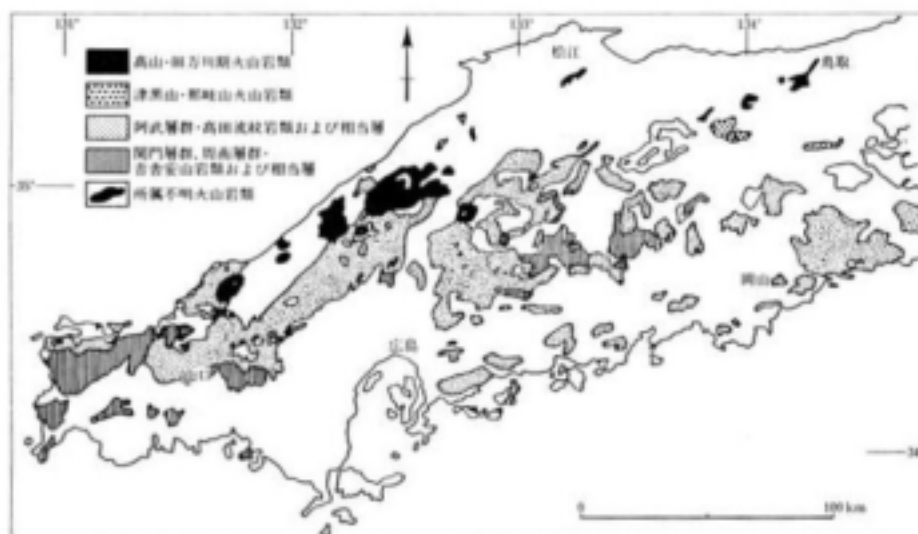


図 3.3.3 中国地方における白亜紀～古第三紀火山岩類の分布
(日本の地質『中国地方』編集委員会(1987)による)

中国地方 白亜紀-古第三紀の深成岩・火山岩分布

高山-四万川期深成岩類・因美期深成岩類には鉄が多く含まれて、中国山地のたたら遺跡分布とかさなる。
一方、広島花崗岩類には鉄分がすくないといわれている。

白山火山帯に沿った日本海海岸に沿った中国山地にはこんな鉄資源を豊富に含んだ深成岩のベルトが長く伸び、日本海へ流れ下る川筋や河口の海岸には長い年月を経て砂鉄を堆積させた。
石見から出雲・奥出雲から伯耆・美作・奥播磨そして丹後・奥琵琶湖へと続く山陰地方の古代神話・伝

承にはこの鉄を含んだ深成岩ベルト地帯での製鉄神話・伝承が数多く含まれ、日本誕生のドラマもこの大陸との鉄の交易支配・製鉄技術支配を抜きにしては語れない。

また、近世・江戸時代には山砂鉄を切崩し、砂鉄を採取する方法として「鉄穴流し」の方法が発明されるとこの豊富な鉄資源を使って、和鉄生産の中心地として隆盛を極める事になる。

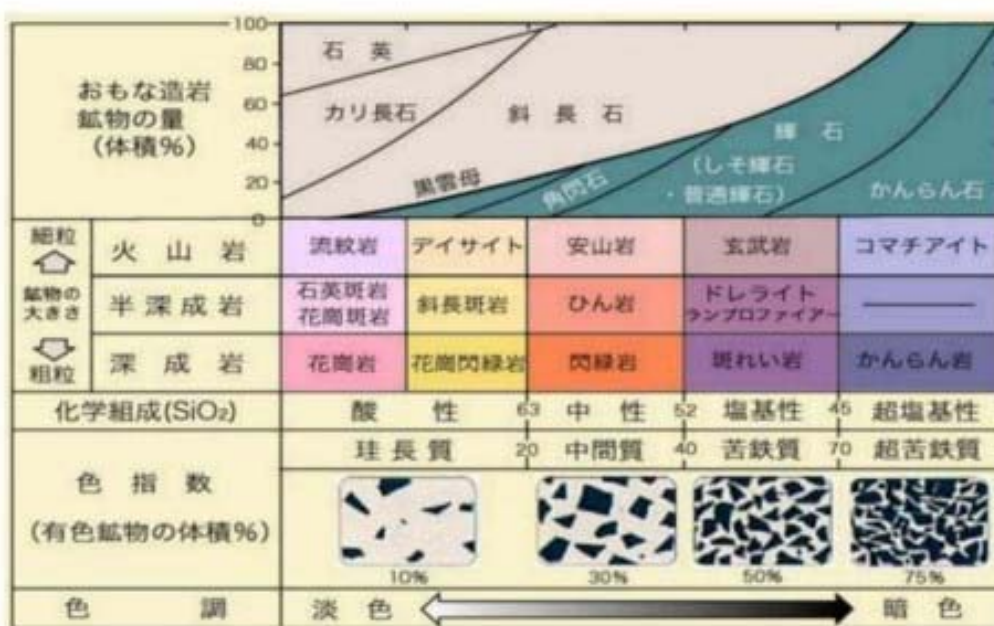
そんな中国山地の砂鉄ベルトの象徴が須佐高山の磁石石と考えられなくもない。

何度となく続く落雷が鉄分を含んだ岩山を磁化させ、鉄を吸いつけ、鉄の存在を知らしめる。

鉄の山が神の山になった所以であろう。神奈備山の磐座も同じような歴史を秘めているのかも知れない。

この須佐高山にスサノオ伝説があることから、古代 出雲の民は既にここに鉄原料があることを知っていて、日本での和鉄生産を試みていたかも知れぬ。

● 山口県の火山岩と深成岩



5. 近世和鉄生産が絵図にされた白須たたら遺跡探訪 2004.7.2.

「先大津阿川村山砂鉄洗之図」に記録された和鉄・幕末長州の武器を支えた萩藩営のたたら製鉄



白須たたら遺跡 2004.7.2.



「先大津阿川村山砂鉄洗之図」からの製鉄工場作業の模写



山口県のたたら遺跡で気になっていた製鉄遺跡がある。

鮮やかな赤の炎をあげる「たたら炉」の写真にお目にかかった白須製鉄遺跡である。

数年前 新聞記事でその位置を知って、確かな記憶は無いのですが、昔バイクで福栄町にある大板山たたら遺跡から山中を須佐へ駆け抜けた時に 人っ子一人いない山中の小さな池の岸に古ぼけた遺跡案内板があり、池を隔てて対岸にあった製鉄遺跡ではないかと思いながらいけなかった所。

白須たたら真の真赤なたたら炉の絵図を見る度に気になっていた場所である。

須佐のホルンフェルス海岸から日本海海岸沿いを益田から萩・長門を結ぶ幹線道路国道 191 号線に出て 直ぐに須佐トンネル 大刈トンネルを抜けた所が惣郷。

地図では左へ山中へ入る県道 303 号に入り、少し行った所が白須たたら遺跡と眼っこをつけて大刈トンネルを抜ける。

山の中で見落としそうな車一台がやっと通れる道があり、碎石場が見えなければ、行くのをためらう道路を県道 313 号と見て入ってゆく。

入口を少しはいると県道 313 号惣郷の標識があり、この道でよいこと判る。なぜ、入口に標識がないのか。。。。。。



県道とは名ばかり 全く生活臭が感じられぬ
超過疎 県道 313 号惣郷の標識



県道 313 号 白須谷

人のにおいが全くしない道である

でも、まったく人の気配が感じられない道である。

碎石場の横を通り抜けると道の両側の雑草が車にぼんぶつかるまったく手入れされていぬ狭い道。全くひと気のない谷間を遡ってゆく。横にいる家内がもう 引き返そうという。

もう、過疎の最たるところなのだろう。 通行が在ったとはとても考えられぬ寂しさである。

以前 通った事のあるイメージが無かったら止めただろう。

細い川に沿って 15 分ばかり、そろそろ登ってゆく。ひと気のなさ 寂しさ漂う不気味さとは別に 谷沿いの道には合歓の木が満開の花をつけて実に美しい。

合歓の木の花を意識した事は余りありませんが、家

内に教えてもらって 初めてじっくり花に目を近づけると本当に美しい。

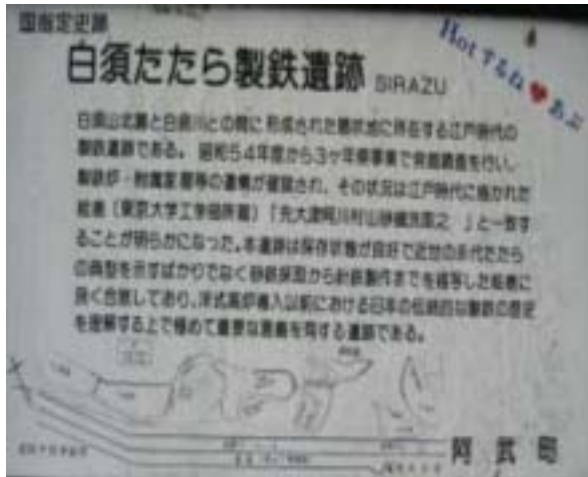


白須川にそって 満開の花をつける合歓の木 2004.7.2.



山中の道の向こうに砂防ダムとダム湖が現れ、ダム湖の道端に白須たたら古ぼけた案内板。前には反対側から入った場所で間違いなし。湖面に合歓の木と山が映って美しい。その向こうに湖面に沿って平坦な場所があり、その向こうに高い杉が並んで立っている。向こう側には渡れないが白須たたら遺跡である。昭和54年度からの発掘調査で製鉄場、事務所、鉄塊の冷却場、鍛冶屋、人足小屋などの状況が明らかにされると共に絵図との一致が確認された場所である。





須佐町惣郷 白須たたら製鉄遺跡 2004.7.2.

かつては この道も白須たたらへの街道筋として、賑わったに違いないが、今はまったく人家もない人
 っ子一人いない静かな場所で眠っている。
 満開の合歓の木がそれを静かに見守っている。
 最近 は 幕末のドラマがもてはやされ、高杉晋作や長州が表舞台で語られている。
 萩には西洋式の反射炉も作られ、その遺跡も残っている。

でも、その裏にあって 長州藩の武器を支えた製鉄工場が山深い日本海側の山里に点々と存在した事な
 どほとんど忘れられている。
 絵図が白須たたらを呼び起こしてくれたと聞く。
 素晴らしい自然の中 今一度 表舞台に出ることはないのだろうか・・・
 地域に人がいなくなるとやがては完全に忘れ去られてしまう。

よく歌った合歓の木の歌

「合歓の木の葉のように 今はただ眠ろうよ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」



● 白須たたら遺跡 概要

「先大津阿川村山砂鉄洗之図」に記録された和鉄・幕末長州の武器を支えた萩藩営のたたら製鉄

白須たたら遺跡は惣郷の白須山の山麓、国道191号線から分かれて白須川の谷に沿った県道303号線を約1.8キロ上 砂防ダム湖の湖水面南方の白須川左岸段丘上にある文化14年（1817年）頃操業と言われる江戸時代のたたら製鉄遺跡。

山口県東北部では中世末から近世初期にかけてたたら製鉄が大きく発展。

さらに、幕末維新に向い長州藩の軍事体制にとって重要な取組みとなり、白須たたらではやがて立木を伐り尽したため、尻高山が後継地となる。惣郷の浜からの船便は楽であったが、立木が少なく、水の供給も不十分で、条件が悪く、早くも五年目には、須佐町の金山谷へ移って行った。



白須たたら再発見の発端は当時通産省の葉賀七三男氏によって東京大学資源工学科の図書室にある絵巻物「先大津阿川村山砂鉄洗之図」と一致する製鉄遺跡としてこの遺跡が発表されたことによる。

昭和53年に白須川砂防ダム建設が始まったこともあり、昭和54年度からの発掘調査で製鉄場、事務所、鉄塊の冷却場、鍛冶屋、人足小屋などの状況が明らかにされると共に絵図との一致が確認。

絵図と共に保存状態がよく、永代たたらの様相を良く残しており、和鉄製造技術を理解するうえで極めて重要な遺跡と言われている。

● 「先大津阿川村山砂鉄洗之図」



たたら場



「先大津阿川村山砂鉄洗之図」からの製鉄工場作業の模写

「先大津阿川村山砂鉄洗之図」より

江戸末期に描かれたとみられる絵巻は全長約23メートル。

現在の豊北町から長門市にかけての地域で砂鉄を採る場面から始まり、惣郷村（現阿武町）のたたら場での炉づくり、風を送りながら砂鉄と木炭を三日三晩焼き続ける様子など鉄の延べ棒ができるまでの全工程が色鮮やかに描かれている。



「須佐高山の磁石石」 & 白須鉄山遺跡を訪ねて

中国山地の砂鉄ペルトの西端 山口県北東部の和鉄地帯を訪ねて

【完】



須佐町 ホルンフェルス 2004.7.2.

